

1. 活動概要 炭焼きは、日本の樹木を守り山村を支える伝統産業であり、世界に誇れる文化でした。炭は長い間、家庭用燃料の代表として炊事や暖房用に広く利用されてきましたが、生活の近代化によって使い勝手の良い電気、灯油、ガス等の燃料に取って代われ需要は激減しました。

しかし近年、炭のもつ新たな環境改善効果が再び注目されています。この活動を通して、身近な材料から炭ができるまでの過程を学び、炭のもつすばらしい効果を体験してみましょう。

2. 活動場所 炊飯棟（本館・荒沼キャンプ場・板橋キャンプ場）

3. 所要時間 3時間程度 ※但し、水分を多く含んだ材料は時間が掛かります。

4. 費用 180円(薪代) ※但し、コンロ用ガスを持参の場合は無料です。

5. 準備 《自然の家》薪・かなづち・釘

《各自》木の枝や実など炭にしたいもの・菓子缶・軍手・新聞紙・マッチ・釘

6. 活動内容



① 木の枝・実・葉・花など炭にしたい材料を集めます。



② 用意した菓子缶のフタに釘などで適当な数の穴を開けます。



③ 缶の中に材料を入れます。(缶に入れる材料は種類ごとに分ける)



④ かまどに薪をくべて、火を着けます。火が大きくなったら缶を置きます。フタの穴から煙とガス(揮発分)が出て来ます。



⑤ ガスに引火しフタの穴から火が出ます。その後、フタの穴から煙やガスが出なくなったら缶を火から降ろします。



⑥ 缶が冷めたのを確認し、フタをゆっくり開け炭を丁寧に取り出します。(葉や花などは形が崩れやすいので注意する)

★参考までに 【火に掛けてからの所要時間】

・葉、花 5分 ・木の实、まつぼっくり 15分 ・木の枝 30分～50分

7. 実施上の留意点

- ・軍手を着用し、手などを火傷しないように注意します。
- ・かまどから取り出したばかりの缶は熱くなっているので、冷ましてからフタを開けます。
- ・缶の中のガスが十分に抜けていない場合、フタを開けた際に作った炭が燃えてしまいます。
- ・作業後は、残り木、灰などを片付け、用具を返納します。また、活動場所も清掃します。